

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】■H23（A－Ⅱ）□H24（Ⅰ）□H24（Ⅱ）【AIMS】□H25／

京都大学

■プログラム名

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成－災害復興の経験を踏まえて－

■相手大学・機関（国名も記載ください）

アジア工科大学（タイ）、チュラロンコン大学（タイ）、カセサート大学（タイ）、バンドン工科大学（インドネシア）、ベトナム国家大学ハノイ（ベトナム）、マラヤ大学（マレーシア）

■主な活動内容（概要）

【学生の相互交流（国際協働教育履修コース）】

ASEAN 3 ヶ国 5 大学から各 3 名計 15 名の学生を 4 週間受入れるとともに、京都大学学生 15 名を ASEAN の大学に 4 週間派遣して学生の双方向交流を実施。

平成 24 年度・25 年度はタイ・カセサート大学に派遣した。

平成 26 年度はインドネシア・バンドン工科大学へ派遣予定。

【教員の相互交流（コラボレーション講義）】

ASEAN 3 ヶ国 5 大学から若手教員を受け入れ、また京都大学から ASEAN の大学に派遣して教員の相互交流を実施。

【FD シンポジウム】

協働教育プログラムの改善・質の向上を図るため ASEAN 4 ヶ国 6 大学から教員を招聘し、FD シンポジウムを開催（平成 24 年度はタイ・バンコク、25 年度は京都で開催した）

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

特になし

成功事例

【On the Research Training (ORT)】

履修コースの特色として災害現場に出向く ORT 演習を重視しており、24 年度・25 年度の現場実習（日本・タイ）に参加した受講生のほぼ全員から貴重な体験ができ、非常に有意義であった感想が得られた。

【ASEAN 履修生が京都大学大学院工学研究科博士課程に入学】

平成 24 年度にタイのアジア工科大学から受け入れた履修生で修士課程の学生 1 名が 25 年度入学試験に合格し、社会基盤工学専攻に入学した。

【台湾成功大学（部局間学術交流協定校）が履修コースへ新たに参加】

アジア諸国への情報発信の結果として、台湾成功大学から 26 年度履修コースに参加したい要望があり、経費は同大学が負担して派遣される学生 3 名を 4 週間受け入れる。